

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(106)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(106)—

1. 始めに

前報(105)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は器楽協奏曲です。

Columbia OS-2376-AX

モーツアルト クラリネット五重奏曲イ長調
クラリネット三重奏曲変ホ長調
ホルン五重奏曲変ホ長調
ヴェンテリン・ゲルトナー (クラリネット)
クスマウル弦楽四重奏団
ディーター・クレッカー (クラリネット)
コンソルティウム・クラシウム
エーリッヒ・ヘンツェル (ホルン)
コンソルティウム・クラシウム

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

Columbia 盤ということで、Columba、正相、第4時定数 Low で聴いていきました。

クラリネット五重奏曲は、前報(105)と同じお馴染みの曲で、ゲルトナーのクラリネットは、前報(105)と同様、ふくよかで伸び伸びとした演奏です。バックの方のクスマウル弦楽四重奏団は、もう少し艶のある音で前に出てきてほしいところです。

クラリネット三重奏曲は、初めてきくものですが、落ち着いた表情の曲で、クレッカーのクラリネットもコンソルティウム・クラシウムも抑制の効いた演奏です。

ホルン五重奏曲変ホ長調は、これも初めて聴くものですが、落ち着いた地味な曲で、

ヘンツェルのホルンもコンソルティウム・クラシウムも抑制の効いた演奏です。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果により、上記の盤の特徴がよく把握できます。

以上